

第6期町田市民文学館運営協議会第5回議事録

- 開催日時 2024年6月18日(火) 18:00～20:00
- 開催場所 町田市民文学館 2階大会議室
- 出席委員 会長 渡邊正彦
委員 阿部哲也
委員 貝原俊明
委員 草刈大介
委員 中垣理子
委員 名取玲子
- 欠席委員 副会長 長尾洋子
委員 熊谷玄
委員 若宮和男
- 事務局出席職員
市民文学館担当課長 野澤茂樹
担当係長(学芸員) 神林由貴子
主任(学芸員) 山端穂
- 資料
資料1 文学館に関する主な事項について(12月13日～6月17日)
資料2 57577展2nd展アンケート集計
資料3 議論されてきたテーマの現在地と課題

○ 次第

開会

【議長】第6期の運営協議会が始まって1年と8カ月が経過した。コロナの影響を含めて、文学館を取り巻く社会状況も大きく変化してきた。本日は、これまで議論をしてきたこと、各委員からご提案いただいたことに対して、文学館がこの間、何をしてきたのかについて、報告・まとめをし、次期運営協議会へ引き継ぐ課題などについて議論できればと思う。

議事

1 事務局からの報告

(1) 文学館に関する主な事項について（12月13日～6月17日）

【事務局】資料1について説明

【議長】前回の運営協議会から本日までの文学館の活動報告について質問・意見をお願いしたい。

【委員】助成金が通らなかった理由はなぜか。

【委員】助成金は美術系が強いのではないか。

【事務局】通らなかった理由はわからない。申請が通っている団体は、多くの助成金に申し込んでいる傾向があるため、文学館も引き続き申請していく。

【委員】ショートショートコンクール表彰式について、今回の応募作はどうだったのか。

【事務局】個人的な感想としては前年以上におもしろい作品が多かった。

【委員】公表の場を広げることで応募数の増加や作品のクオリティ向上が期待できる。町田市の取り組みについてデジタルリソースをつくり、こうしたチャレンジを知らしめることでメディアは関心を示すのではないか。助成金の応募も無料ならばどんどん応募した方が良い。

【委員】ショートショート出張授業は小学生の受講数が多い。これは授業で取り上げているのか。

【事務局】学校の授業の一環として取り入れてもらっている。

【委員】子どもたちは書く力が衰えている。書くことは学力向上にもつながる。パソコンの授業もあるが、学校は書くことに力を入れている。

【委員】会議室の利用減について、SNSの普及などが影響しているか。

【事務局】会議室の利用者は高齢者が多いためSNSの影響はないと思われる。利用減の理由としては、会議室貸出のための登録手続きが必要だが、コロナ禍で利用期限が切れ、そのまま戻ってこない団体が多い。

【委員】どういった団体が利用しているのか。

【事務局】文学館は、登録できる団体の活動内容を文学に関わる団体と制限している。生涯学習センターは文学館よりも利用範囲が広く、駅も近いため利用率は高い。

- 【委員】 地元の団体が解散になったり、コロナ禍でサークルが廃止になったり、子ども会が解散になったりと、圧倒的に外に出る機会を失った。公民館（生涯学習センター）を利用している団体がなくなってしまった。以前は駅に近い公民館の利用者があふれていたから文学館も使ったが、今はない。
- 【委員】 会議室の稼働率が町の活性化に影響しているか。
- 【委員】 夜の文学館通りは静かなもの。以前は6時以降も会議室利用していた団体がいたけれど、今は少ない。最近では高校生がサロンで勉強している。登録制ではないサロンを高校生が使っているが、そうした利用を増やすような方法を考えてあげれば利用が増えるかもしれない。ただ、それだと会議室利用の収益にはつながらないが。
- 【委員】 高校生などがサロンを使うのは良いことだと思う。
- 【委員】 会議室の使用用途は制限しているのか。
- 【事務局】 運動や楽器の演奏などは不可。空き予約では文学以外の活動団体も利用可能。
- 【委員】 鶴川の施設はいつ行っても利用されている。鶴川は駅とセンターしかないから利用率が高い。
- 【委員】 何かを変えないと、利用が増えることはないのでは。
- 【事務局】 展覧会でのイベントなど、その時その時で働きかけるが、会議室利用は特に働きかけていない。
- 【委員】 会議室利用が館の存続にかかわるのであれば、何か手立てが必要。そうでないなら現状維持か。
- 【委員】 子ども会の話だが、現在も解散したままか。
- 【委員】 マンションで自治会をつくっているから、今までの自治会には子どもが集まらない。
- 【委員】 若い父母は自治会や子ども会に関わらない。
- 【委員】 文学館の問題というよりは市全体や都に渡る大きな問題。

（2）57577 展 2nd 展アンケート集計

- 【事務局】 資料2について説明
- 【議長】 ここまでの内容について、質問・意見をお願いしたい。
- 【委員】 こどもたちの短歌、俳句作りという学習もある。展示室の中で自分の作品があったらと思うが、今回の展覧会の内容は子どもには難しい。
- 【委員】 来館者に対してアンケートの回収率が低い。来館者数から見てもアンケートがこの数だともったいない。回収方法を帰宅後にも回答できるような形にしてはどうか。
- 【委員】 俳句だと短すぎて、57577だと今の若者にもとっつきやすく人気があるのだろう。
- 【委員】 なぜ短歌が若者に人気なのか。

【事務局】短歌はSNSでアクティブ。

【委員】若い人の中には、文章を書くこと、物語をかくことに苦手意識があるのではないか。そうした若い人の意識のなかで、短歌の短い字数の中に凝縮された自分の思いを表現する方法が合っているのではないか。物語の中で文脈をつないで行ける力が育てばいいが。

2 討議

(1) 議論されてきたテーマの現在地と課題

【事務局】資料3について説明

【議長】ここまでの内容について、質問・意見をお願いしたい。

【委員】美術館もコロナ禍以降は来客数の戻りが課題。会期を長期にすることで、全国からいらっしゃる方からは長くて助かったという声もある。ただ、借用期間の関係もあり、長期にできないこともある。

【委員】講演会のようなものでお金は取れないか。

【事務局】ワークショップでは実費をいただくが、直接講師にお渡しするので文学館の歳入にはならない。

【委員】展覧会の観覧料は、回数が決まっている。収益を考えるのであれば違うサービスを考えてもいい。文学に関わっている人、編集者や作家たちと、興味のある人が10人、20人集まって、気楽に参加できる集まりができないか。

【委員】発信し続けるものが必要。常設展ではなくウェブサイトを整えて発信し続けていく。無償で発信できる何かを考える。文学館に足を運ばせるだけでなく。

【委員】解析することが必要。2050年には人口が三分の一になると予測されている。そうした中で外国人の流入を緩和するとなれば、空いている会議室で日本語教室を定例で開催するとか。

【委員】お客さんに足を運んでもらう施設という表現が少しひっかかる。足を運ぶのはリアル、足を運ばなくても拠点であればいいのではないか。

【委員】必要な人来てもらおう、ということか。

【委員】運んでもらうという意識というか、下手に出ているような表現が気になる。

【委員】語弊があったかもしれないが、文学館に来なくて良いとは思っていない。来るためにも常設のものがあるといいし、それがウェブ上でもいい。ことばにまつわる何かがあるって、それを目的に人が集まってくる。魅力がないと人は集まらない。

【委員】自分の生活圏に気持ちの良い、つい立ち寄りたくなる施設があって、近くを通ったら散歩道のコースに入っているというか、生活圏における定着性のような形でことばらんどが入ってくればいいのではないか。

それだけの存在になるには、文学という固有のテーマがあるので、その拠点になりえているか。

- 【委員】文学は面倒くさいメディア、読み手が絵を、音を想像しなければならない。だからこそその面白さがあるという風に言った方がこの魅力につながると思う。
- 【委員】短歌の展示は面白かった。短歌を募集して、それを展示室に飾る。そうするとそれを見に来たくなる。何かを発信して、ここに足を運ぶという。それが面白い。そういうことを常設して、繰り返していけばいいのではないか。
- 【議長】今日で最後になるが、建設的で前向きな会であった。協力に感謝し閉会としたい。